

令和 5 年度 富士河口湖町総合教育会議 議事録

日 時：令和 5 年 11 月 27 日(月)13：25～14：50

会 場：町役場 3 階 304 会議室

出席者：町長、副町長、松浦一幸教育長、梶原作造委員、小林和子委員、

堀内智美委員、泉和章委員（教育委員会）

学校教育課 ー 三浦課長、

生涯学習課 ー 梶原課長

文化振興局 ー 野沢局長

教育センター ー 藤巻センター長

（事務局）

清水政策企画課長、小佐野係長、三浦

1. 開会
2. 町長あいさつ
3. 協議

【教育長】

資料「令和 5 年度富士河口湖町学校教育関連施策」の説明をいたします。

1 いっそうの学力向上と自立する力の育成のために

(1) 学校教育を支える人的資源の充実

現在町では町単教諭を小学校 12 名、中学校 4 名、教育センターへ 1 名配置しています。配置の目的としてはグループ学習や習熟度学習などきめ細かな学習形態を作ることや、町内にいくつかある複式学級の複式授業の解消を目的として配置しています。複式学級は町単教諭では解消できませんが、複式授業は教員免許を持った町単教諭を配置することで解消しています。

ICT の部分では情報活用能力と言語能力は同様のものと位置付けられています。そのため、町では情報活用能力の習得に力を入れています。

支援員については特にインクルーシブ教育の進展という部分において、普通学級に在籍する個性や特性を抱えている児童・生徒の個別の学習支援や生活支援を図っています。町内の小学校へ 24 名の支援員に頑張って頂いています。

教育センターについては相談員が 2 名在籍し、学校に適応できない子どもたちの心のサポートと適切な学習支援を行っています。

学校を支える地域のボランティアとの連携の推進では、退職された教諭や山梨大学に通う学生へ町からお願いし、学習支援ボランティア等として、長期休業中に学習応援教室を開催しています。

(2) 新学習指導要領に対応する教育課程の編成と実施に伴う研究の推進

小学校の英語科導入、プログラミングあるいは道徳の教科化などあります。特に町では、小学校に英語支援員を3名配置し、英語教育へ力を入れています。この取り組みは山梨県内でも先進的な取り組みであり、他自治体からの注目度も高い取り組みです。

(3) ICT 機器の活用のいっそうの推進

町内の情報教育研究会を中心に教職員の研修を進めています。

(4) 教育センターによる授業の直接支援

退職された教諭や富士山科学研究所との連携を深め、木工教室や富士山学習等進めています。

(5) 学校間、校種間の合同授業や交流活動の推進

小規模校の課題を克服するため、校外学習を合同で行っています。保・幼、小、中連携については、今年度はやまなし幼児教育センターと連携を行いました。その他にも河口湖畔の教育協議会の幼年教育部会と連携し、事業を進めています。この事業は県下でも先進的な取り組みとして、実践発表も行いました。

(6) 学習の課題を明確にし、改善をはかっていく

全国学力学習状況調査等の調査結果をもとに、課題を明確にし、各校で対応して学習に取り組んでいます。

(7) 就学相談の充実

就学指導担当（就学相談員）を教育委員会に1名配置しており、その子の実態を見ながら、その子にとって最もふさわしい就学について保護者との協議や相談を行っています。

2 豊かな心の育成のために

(1) 子どもたちの心と生活の安定は学力向上の土台であることを前提に支援する。

特に不登校改善のため、教育委員会にスクールソーシャルワーカー（SSW）を1名、教育センターに相談員を2名配置し、連携しながら対応を行っています。その他にも学校と家庭の連携を進めるため課題を発見し、改善のための取り組みや、いじめのない好ましい人間関係の醸成を心の育成の一環として行っています。

(2) 行動の規範を明確に示し、尊ぶ子を育てる。

「正義を尊び」、「ルールを守り」、「マナーを身に付ける」など子どもたちの育成を学校だけでなく、保護者とも話をするなど、町全体で推進していきます。

(3) 郷土を愛する心情を育てる

富士山学習、自然観察教室、防災教育を実施することで推進しています。

(4) 学校の安全・安心づくり

危機管理マニュアル（防災だけでなくいじめ問題や学校事故、アレルギー事故等）を各学校で策定し、危機管理体制が整備されています。

(5) 教育センターの学校支援を推進する

子ども達だけでなく、保護者からの相談にも積極的に関わっています。各学校からも保護者へも家庭教育の重要性をお知らせするとともに、子どもを中心とした家庭と学校の両輪で健やかな子ども達の育成に努めています。

3 地域に支えられた健康で安全な学校作りと体力の向上のために

(1) 学校事故防止のための必要な対策の実施

今年度も通学路安全点検を実施し、既に1件横断歩道の色が薄くなっていた箇所を再塗装して頂きました。アレルギー対応としては町に配置している栄養士1名、調理員14名に対し研修等を実施しています。

(2) 地域の安全を確保していく

警察だけでなく、町としても青色パトカーの運行等で安全を確保しています。

(3) 子どもたちの社会教育活動や社会体育活動への参加を推奨し、日常の外遊びを勧めるなどして、子どもたちの体力向上を図る。

新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことで、日常的な活動が再開していますが、子ども達の外遊びは少ない部分があり、課題だと感じています。

(4) 低学年からの自分の健康に関する意識向上のための指導を充実させ、自己健康管理に対する実績を支援していく

各学校において学級指導等で実施して頂いています。

4 学校の多忙化解消のための取り組みを進める。

- (1) 令和2年4月に導入された統合型校務支援システムの円滑な活用をはかり、教員の多忙化改善を図るとともに教員が子ども一人ひとりと向き合う時間の確保につなげる。
- (2) 働き方改革、教員の「子どもたちに向きあう時間の確保」の方針を受けて、実施可能などころから早急に対応していく。

統合型校務支援システムを導入したことで、導入前と比較すると時間の確保は出来るようになっているが、新しく取り組まなければならないことも増えており、なかなか時間的なゆとりが確保出来ない現状です。今後改善に向け、実施可能などころから時間確保のための取り組みを行っていきたいと考えています。

【教育センター長】

資料「令和5年度 富士河口湖町総合教育会議資料」の説明をさせていただきます。

1 はじめに

教育センターの成り立ちについて

2 教育センター設置条例における事業について

①教育に関する専門的、技術的事項の調査研究に関すること

理科・環境教育副読本、社会科副読本の作成を行っており、令和5・6年度は理科・環境教育副読本の改定年度にあたり、関係機関と共同しながら執筆しています。

富士山学習の充実ということで、地域について学ぶということから新倉掘抜の学習についてプログラム化しています。またここ数年は防災教育のプログラム化に力を入れています。

新学習指導要領に向けての調査研究という部分では、教育長からの説明にもありましたが、外国語、道徳についての調査研究を行っています。

②学習開発に関すること

3・4年生は西湖野鳥の森公園にて退職教諭の力を借りながら木工教室、3年生の社会科見学では役場の見学、4年生では河口湖新倉掘抜を実施しています。

③教職員の研修に関すること

町単・期採・代替職員等の研修会、支援員対象研修会、新しく町内に勤務される先生を対象にした町内の施設の紹介する郷土学習会、スキルアップとしまして外国語・ICTの研修会を実施しています

④教育に関する情報の収集、整理、保管及び活用に関すること

各校の教育課程や安全マニュアルを集めています。センターとしては「子どもの生活・意識アンケート」を実施しており、教育センターだよりを月2回発行しています。

⑤必要な研修組織にの設置と運営に関すること

事業運営に必要な各種組織の運営を行っています。

⑥教育相談に関すること

昨年度574件の相談を受けています。内訳は資料のとおりです。

⑦幼保、小、中、高、大、関係機関との連携に関すること

保小、小中連携協議会を年間1回開催し、その年度の計画を立てています。またスクールソーシャルワーカー（SSW）とともに保育所へも就学相談を行っています。

⑧代替派遣に関すること

教育センターに1名代替派遣の先生を配置し、各校へ派遣しています。課題としましては同じ研修等へ複数校から参加する際に、同じ日時のため、1つの学校へしか代替派遣が出来ないといった事象が発生しています。

⑨その他目的達成に必要なこと

不審者対策として青色灯パトロールカーへ各学校の下校時刻をとりまとめ提供しています。

3 具体的な取り組み（特に力を入れている取組・連携等）

（1）相談業務（教育相談）

相談員を2名配置しています。相談の内訳については資料をご確認ください。こちらの相談件数には子ども達だけでなく、保護者からの相談も入っています。

現在9名の利用がありますが、実際に学校とつながることが重要です。中学3年生になると進路を考えなければならず、中学校の先生方と相談し進路を決めていくこととなります。センターでは子ども・保護者・中学校とそれぞれ話をし、お互いのあいだを取り持ち子どもにとってのより良い方法を一緒に考えています。

（2）富士山学習（防災教育）の充実 ～専門機関との連携について～

センターとして関わっていることは、世界文化遺産富士山を児童・生徒へ伝えていくための授業実践をどう進めるかとなっております。

富士山学習研究会ではこの4年間資料の表や写真のような取組みを進め、また継続しています。

（３）幼保小中連携の充実

保・幼、小、中連携については、先にもお話しましたが、今年度は保育園と小学校の連携の部分で一步前に進めたかなと思っています。今話題となっているのは、保育園から小学校への小1ギャップ、小学校から中学校への中1ギャップがあり、子ども達がそこで躓き、新しい環境へうまく適応できないといった課題があります。今回の研究では保育園の年長さんと小学校1年生の間をどう上手くつないでいけるかという研究を行いました。今後もこのような情報交換が出来る仕組みを継続的に考えていかなければならないと考えています。

（４）情報教育研修の充実

現在町内小中学生にはタブレットを1人1台配布しています。子ども達へ指導する立場の町内に勤務頂いている教諭に対し、令和4年から3年間の計画で研修を受けて頂き教諭達が子ども達へわかりやすい指導が出来るよう指導レベルの向上を図っています。

（５）理科・環境教育副読本、社会科副読本の作成

理科については令和5・6年度で改定を行うこととしており、現在編集作業を行っています。社会科副読本につきましては、昨年度末に仕上がっており、4年間分をまとめて作成しました。社会科副読本からは子ども達のタブレット端末からも見られるようにPDF版も策定しました。

4 終わりに

学校からのニーズや町からのニーズを受け、教育センターとして何が出来るか、あいだに立つ立場から何が出来るか考えながら事業を進めた結果、今の事業となっています。事業が増え続ける中でも、限られた時間の中で効果的に子ども達と関われるか、センター事業の再構築なども必要になってくると考えています。町独自の教育を支えていくというところでセンターとしての責任を果たし、今後も貢献が出来ていければと感じています。

・懇談、意見交換

【政策企画課長】

ありがとうございました。続いて懇談、意見交換に入りたいと思います。教育長、教育センター長からご説明をさせて頂きました。本日学校教育課長だけでなく、生涯学習課長、文化振興局長も出席させて頂いております。教育全般に亘って意見交換を行いたいと思いますので、ご意見はありますでしょうか。

【梶原委員】

ご説明ありがとうございました。教育長からありました小学校と中学校の連携という部分で環境が変わる際にギャップが起こるといふ点に時代だなと感じました。私の小さい頃は兄弟も多く、いとも近くに住んでいたため、幼い頃から多年代で遊ぶことが多くありました。進学した際にはこういうことがあるといふことを事前に情報共有することが出来ていました。それが今の時代ではなかなか難しい部分があり、対応するために学校の先生方と情報交換の場を設け、研究し、対応して頂く姿に改めて感心させられました。それだけでなく、説明を聞く中で、日々の課題と課題の解決に向け様々なことに取組まれていることに改めて感心させられました。

昨今の新型コロナウイルス然り、様々な課題があったかとは思いますが、そこを感じさせることがないくらいに大変苦勞して頂きながら対応して頂き、私としても学ぶことが多くありました。

小中学校の空調整備や老朽化した学校施設の改修も進み、子ども達がすばらしい環境で学ぶことが出来ているのではないかと考えています。その他にも給食費無償化など親とすると本当に魅力がある町だなと感じています。民間企業の調査結果では山梨県の住みやすい町ランキング1位に富士河口湖町が選ばれており、本当に魅力的な町だなと改めて感じています。

【小林委員】

新型コロナウイルス感染症が5類となり、学校行事などへ参加する際には児童がマスク姿から素顔に変化し、素顔からは笑顔が見られるようになり、大変うれしく感じる事が出来ました。やはり子ども達の素顔から溢れ出る笑顔は素晴らしいと再認識させられました。私自身もツエルマットとの姉妹都市提携、辻井さんのコンサート、学校訪問と貴重な経験をたくさんさせて頂いています。

町長からのお話でもありましたが、人口減少・少子高齢化が当町でも進んでいます。町内では小規模校からある程度の規模の学校に児童が流れている現状もあり、地域の将来のことを考えると不安な部分もあります。

【堀内委員】

町内すべての学校訪問をさせて頂き、そのなかで授業について感じたことは、先生方が子どもの興味関心を引くため、かなり工夫した授業を行っていると感じました。授業を受けている子ども達も授業が楽しくてたまらないという印象を受け、先生方の日々の努力の積み重ねを感じました。今日の説明でもありましたが、昨今では教諭の多忙化が社会問題となっています。そういった中でこれだけの授業を行っているということは学校・教諭だけの努力ではなく、町の努力の積み重ねも大きいと感じています。特に町単教諭・支援員・ALTの配置が大きいのではないかと考えています。教育センターも継続的に学校をバックアップしていることを改めて感じています。教育センターの役割は教育レベルの向上だけではなく、多忙な学校の負担軽減にも繋がっていると感じています。多くの組織の運営や連携を継続することで、事業をステップアップさせていると感じています。また教諭のスキルアップを図る

ための取組みなど、教育への貢献はとても大きいと思えました。

説明にあった業務を人的にも限られた体制で行うことは本当に頭が下がる思いです。教諭の代替派遣なども考えると許されるのであれば、更なる人的な配置をお願いしていききたいです。

【泉委員】

今年教育委員となり、学校訪問等させて頂き、教育のレベルは私が子どもの頃と比較すると各段に上がっていると強く感じました。その中で気付いた点ですが、同じ町内のなかで小学校の小規模校と大規模校のバランスに疑問を抱きました。次に学校給食ですが、全国的な物価高騰により委託業者での調理が出来なくなるといった報道があります。現在町では町で調理しています。今後も委託等するのではなく、継続して頂きたいです。また学校訪問では机などの備品の老朽化が見られました。現在では授業でタブレットを使用することも増え、机の上に物が置ききれない状況も見受けられましたので、ぜひ改善して行って頂きたいと思えます。

【教育長】

教育委員さんのお話を聞き、学校教育現場では人的配置がまだまだ必要かなと思っています。来年度も最低でも本年度並みの人的確保が出来るよう予算要求していききたいと考えています。

ご意見でもありましたが、昔と違い子ども達が異年齢集団で遊ぶことが少なくなってきました。保育園から小学校への接続、小学校から中学校への接続が大事。保育園は保育園、小学校は小学校とはっきり分けるのではなく、お互いに連携・調整することが大事だと思い、引き続き取組みを行っていきます。

タブレットを使用した際に現在の机では狭いというご意見を頂きました。昔の机はB板で今の机はA板を使用し、大型化はしています。今ではタブレットを置くためのスタンドを机の前に設置出来る商品もあります。原因としては、昔と比較すると使用する物が増えてきているということがあります。それに伴いランドセルへ入れるものも増加しています。ただ、昔と違い、すべてを持ち帰るといところから必要なものだけ持って帰る取組みも始まっています。持ち帰りの問題だけでなく、様々な問題がありますが、いろいろな方のご意見や周囲の取組みを参考としながら進めていければと考えています。

【政策企画課長】

本日説明頂きましたが、教育センターの役割は大きく、ここ数年では事業もだいぶ増え、充実してきています。今後はインクルーシブ教育など、子どもが小さいころからの相談体制や指導体制が大事になってきます。これからより良い教育環境を目指していくうえで、学校教育、社会教育、社会体育、文化振興といった面からも子ども達の成長へ力添えが出来たらと思います。本日様々な意見を頂きましたが、今後も子ども達のためにより良い教育が出来るよう目指していききたいです。